インドネシア・西スマトラ発

インドネシアの警察官にはご用心?!

これはインドネシアの友人が最近遭遇した事件です。

場所はバンテン州・チレゴン町郊外。ナンバープレートの付け替えのために自家用車で警察に向かった時のこと。一車線しかない幅の道路をふさぐようにキジャンが止まっています。拳銃を所持していない警察官らしき二人の男が、何かしらの武器をもって彼の方に向かってきました。同乗の子どもたちを強盗から守ろうと、彼はジャッキを手に車から降り、彼らに警察官身分証明書を提示せよと迫りました。しかしその言葉を無視して、この二人は殴りかかってきたのです。その後、相手がひるんだ隙に車へ飛び乗り、ワルンを吹っ飛ばしながら、急いで警察署に向かいました。

警察署にたどり着くと、後ろから先ほどの二人組も警察署に入ろうとしています。友人がこの二人組のことを署長に強訴したところ、彼らはチレゴン警察の警察官で、強盗殺人事件が頻発しているため、不審人物と不審車両の捜査をしていたということでした。最近は警察官の制服を着た強盗がはやっていますから、警察官の制服というだけで信用はできません。警察官なら出動時には帽子・拳銃・ベルト・靴を着用しているはずだし、身分証明書を提示することもできます。また、制服の左胸には名前も書かれています。

みなさん、インドネシアにお越しの際には十分ご注意を。ちなみに、彼が警察に目をつけられたのは、車がオーバークレジットのものであり、名義変更をしていなかったからだということです。

田口 重久／インドネシア・西スマトラ州在住

田口 重久 プロフィール

会社名：日本工営株式会社 プラント事業部
職　業：鋼構造物の技師 技術士(建設部門)
住　所：c/o Nippon Koei Jakarta Office Jl. Sultan Hasaduddin No. 45, Kebayoran Baru, Jakarta
Tel　：+62-21-726-0556
E-mail：taguchis@centrin.net.id
URL　：http://www.geocities.com/omdoyok/welcome.htm
事業内容：大型公共土木プロジェクト(ダム・水力発電所)の計画・実施。特に大型水門やパイプライン。

イスラエル・キブツ発

バンコックの秋葉原、「パンテッププラザ」

先日イスラエルから日本に帰国する途中のことです。タイにストップオーバーして休暇を楽しんでいたのですが、子ども達がラップトップパソコンのモニターを壊してしまいました。イスラエルでこのような修理をすると費用がとてもかかるので、バンコックで直すことにしました。

パソコンに詳しいタイの方から、「パンテッププラザに行ってみては?」とアドバイスを受けたので、さっそく現地へ。そこには巨大な5階建てビルがあり、秋葉原の小さなパーツショップのような店がたくさん集まっていました。その中で修理ができそうなショップをあたってみると、一軒のショップが中古のモニターを捜してみようといってくれました。

結局、壊れたパソコンのハードディスクを取りだし、その店で買ったパソコンにドライバを入れ直すことに。修理はしませんでしたが、その店でタイ駐在の邦人の方を何人か見かけたので、自分の嗅覚もまんざら捨てたモノではないと実感しました。また、壊れたパソコンはちゃんと下取りをしてもらいました。

バンコックでパソコンに何かトラブルがあったら、パンテッププラザをのぞいてみてください。

萩原　均／イスラエル・キブツ在住

萩原 均 プロフィール

住　所：Kibutz Givat Haim Meahud38930 Israel
TEL&Fax：972++(0)4-636-8289
E-mail：sangha.hitoshi@nifty.ne.jp
URL　：http://homepage3.nifty.com/shokijun/index.htm
事業内容：イスラエル政府公認ガイド.輸出入代行.ハイテク関連技術書翻訳.プログラミング

シンガポール・カンバンガン発

IT先進国・シンガポールのハイテク切符!

シンガポールでは、総距離90㎞、51の駅をもつMRT（Mass Rapid Transit）と呼ばれる電車が活躍している。今年の2月にチャンギ空港駅がオープンし、12月にはチャイナタウンやリトルインディアといった観光スポットの駅もオープン予定。今後、ますますシンガポールの交通が便利になる。

そのMRTの初乗り運賃だが、大人60セント（約40円）と極めて安い。乗り方は日本と同じで、まずは切符を購入。切符は日本のテレホンカードくらいの大きさで、デザインもいろいろだ。現在は「e-linK（イージーリンク）」というカードが多く使用されている。これはゲートにかざすだけで通れるので、荷物が多い時など手間が省けてたいへん便利。また、このカードでバスを利用することも可能だ。

カードの残高が少なくなったら、自分の希望する金額を加えて再利用もできる。窓口のない小さな駅では、カードに金額を付け足すことができる、銀行のATMのような機械も設置されている。これでいつでも利用はOK。それにしてもシンガポールのIT化にはいつも驚かされる。

ついでに、禁止事項についても一つご紹介。"シンガポールらしい"事項として「ドリアンの持ち込み禁止」がある。ご存知の方も多いと思うが、ドリアンは「キング・オブ・フルーツ」と呼ばれ、独特の香りをもつ。バスやMRTだけでなく、ホテルにも持ちこみは禁止。この「ドリアンの持ち込み禁止」のマークを見るたびに「あぁ、私はシンガポールにいるんだなあ」と実感をする。

飯盛洋子／シンガポール・カンバンガン在住

飯盛（いさがい） 洋子（ようこ） プロフィール

SOHOアジア副代表
団体名：SOHOアジア
住　所：32 Lorong Mydin, Tower E #09-02 Astoria Park, Singapore 416826
TEL&Fax：65-6844-5229
E-mail：palmisland @soho-asia.com
URL　：http://www.soho-asia.com
事業内容：SOHOエージェント、地域活性化、シンガポールとのビジネス交流に関してのコンサルティング、調査・マーケティング、執筆、講演をいたします。

地球発 和僑タイムス

世界を股にかける「和僑ネットワーク」。各国に在住する特派員（ちょっとカッコよすぎ？）が現地で仕入れた生の情報を提供します。海の向こうから届く異国の風を感じてください。

※情報提供　和僑国際ビジネスネットワーク　http://www.wakyomall.net/

2002年（平成14年）10月10日 木曜日

台湾・台北発　台湾で分かった、日本人の元気の素とは？

台湾の液晶工場設立に協力した際の出来事です。技術指導のために、日本人技術者が五名、現地入りしました。台湾の食事は日本人には親しみやすいので、技術者の面々は行きつけの料理店を見つけて通っていました。ところが滞在が一ヶ月ほど経過すると、なぜか体が重くなり、だるくて仕事をする気も起きなくなるという症状を全員が自覚し始めたのです。一体どうしたことかとみんなで日常生活を一つひとつ検証したところ、どうやら食事に「塩と醤油」が足りないのではないかと気づきました。

台湾の人は暖かな気温の下で育っているため、汗をかいても体内の塩分が過度に流出しないように調整され、それが料理の味付けにも反映されます。しかし日本から現地入りした技術者は、現地の環境に体が慣れる前に大量に汗をかき、塩分と醤油（アミノ酸）が流失します。しかし食事は現地人向けの味付けなので、塩分とアミノ酸を補充できないために体調を崩したのです。そこで行きつけの料理店に塩を多めに入れるように頼み、日本製の醤油を持ち歩くようにしました。すると瞬く間に、みんなの体調は元に戻りました。それ以来、行きつけの料理店も日本人向けの食事には塩を多めに入れるように心懸けてくれています。

普段、食べ慣れている食事の成分が欠けると体調を崩してしまうのは万国共通のこと。日本人は「塩と醤油」ですが、中国人は「胡椒と油」が、東南アジアの人は唐辛子に代表される「香辛料」が不足すると調子が悪くなるそうです。それらは、それぞれのＤＮＡに記憶されている元気の素なのでしょうか。

柳田二千一／日本国東京都在住（最近は中国本土と台湾を往復）

やなぎだ　いちかず
柳田 一千一 プロフィール

会社名　:株式会社フォトニクス
住　所　:〒146-0083 東京都大田区千鳥3-25-5 千鳥ビル
TEL　:+81-3-5741-1818
Fax　:+ 81-3-5758-9844
Email　:yanagida@photonics-jp.com
URL　:http://www.photonic.co.jp/
事業内容:半導体製造装置に於ける超精密計測（センサー）をリードするハイテクベンチャー。光・ナノテクノロジーの追求。IBMと東芝が製造するThink Padシリーズのノートに使用される液晶表示装置(Flat Panel Display)の製造過程に据えられる検査装置の開発製造。製造ライン(FA分野)の専門会社。

カリフォルニア・アーバイン発　日本語と英語の狭間で苦悩する?!

最近、英語と日本語の間で四苦八苦の７歳の末娘に、親としてどう対処したらいいか？のんきな私も、彼女が学齢期を迎えた去年あたりから真剣に考えている。先輩ママたちに聞くと「日本語はぜひやらせるべきだ」という意見が大半を占める。アメリカに居るのだからバイリンガルは当然と期待される子どもたち。しかし、それとはまったく反対のこんな意見がある。

『完全なバイリンガル』という幻想は持たないこと。時々完全なバイリンガルになる、すなわち日本語も英語も同じように扱える子どもがいるが、そういう子どもは中学生を超えるぐらいの複雑な概念の理解が必要な段階の勉強になると、どちらの言語でもそれを理解できない状況になることが多い。どちらかの言葉を第一言語として明確に決め、他方を第二言語として教えるというメリハリをつけないと、そういう状況になり得る。この先、少なくとも数年は米国で暮らすのであれば、英語を第一言語として育てるべき。彼女は日本語を第二言語として扱うようになる。すなわち日本語を英語で理解するようになる。そうしたくないのであれば、日本で子どもを育てるべき」

もし我が子が両方とも使えないようになったらどうしよう。私としてはそれを一番恐れている。そんな時、悪魔のささやきが私の脳裏をかすめる。

「アメリカで暮らすから日本語の勉強は難しい。本人にとっても教える方にとっても大変な日本語をやらないですむなら、それが一番楽で簡単だよね」「うん、そうすることが一番の解決策なら、それがいいんじゃない」

ああ、楽な方法へ簡単に気が変わる私。お気楽母は強し。

高木 美津子／カリフォルニア・アーバイン在住

高木 美津子 プロフィール

会社名　:AT-HOUSE INC.
通販サイト　:GENKI-USA
住　所　:6 Goddard, CA 92618 USA
TEL　:949-453-8499
E-mail　:mitsuko@genki-usa.com
URL　:www.genki-usa.com
事業内容
（日本向け）:各種アメリカ製品（健康食品、医薬品、動く電話など）の販売
（アメリカ向け）:日本製給湯器の販売など